病害虫対策資料第６号

佐農技防第 289 号
平成 26 年 6 月 27 日

各関係機関長　様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴ育苗圃におけるうどんこ病、苗立枯症の防除対策について

－育苗期の防除を徹底しましょう－

イチゴうどんこ病と苗立枯症（炭疽病、疫病、萎黄病）は、感染した親株が伝染源となり、子苗での発生につながります。気象予報では７月の降水量はやや多いと予報されていることから、うどんこ病や苗立枯症の発生および伝染が多くなると予想されます。ついては、子苗への伝染を防ぎ健全苗を確保するため、下記事項を参考にし、育苗床での防除対策を徹底してください。

記

１．うどんこ病

1）発生状況

イチゴ育苗圃の巡回調査（6月下旬）の結果、親株におけるうどんこ病の発病株率は 68.7%（平年 47.2%、前年 22.3%）であり、平年よりやや多い発生となっている。親株から子苗への伝染や子苗の発病を防止するため、ランナーを切り離す前から防除対策を徹底する。

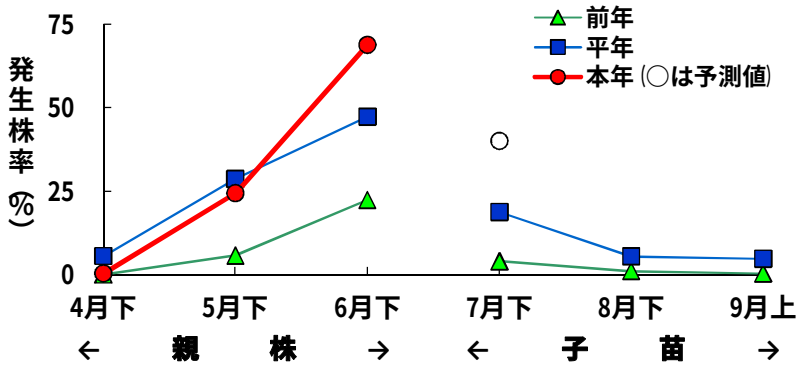


図1　イチゴ育苗圃の巡回調査におけるうどんこ病発生株率の推移

2）耕種的防除

⑴ 罹病部位は除去し、圃場外に持ち出し、適切に処分する。

⑵ 軟弱徒長株において発生しやすいため、株間を確保して通風や日当たりを良くし、適切な肥培管理を行う。

⑶ 定期的に葉かぎを行い、感染葉を除去する。

3）薬剤防除

⑴ 薬液が葉裏や下位葉にも十分にかかるように古葉を除去して、ランナーの先端にもかかるよう丁寧に散布を行う。

⑵ 薬剤感受性の低下を防ぐため、育苗期間を通じて、下記の表1を参考に別系統の薬剤でローテーション散布を行う。

※QoI 剤（アミスター20 フロアブル、ストロビーフロアブル）耐性菌による防除効果の低下が確認されている。そのため、**効果の低下が認められる圃場ではこれら薬剤を使用をしない**。また、**効果が認められる圃場においても、耐性菌の出現を防ぐため、育苗圃から本圃終了までのこれら薬剤の使用は１回にとどめる**。

※SDHI 剤のアフェットフロアブルに対する耐性菌による防除効果の低下を防ぐため、**育苗圃から本圃終了までの本剤の使用は1回にとどめる。**

⑶ 防除薬剤の詳細については、県病害虫防除のてびき 183～186 頁を参照する。

⑷ イチゴにおける各薬剤の使用回数は、**親株からランナーを切り離した時から収穫終了まで**の期間でカウントされるため、使用にあたっては注意する。

表1　主なイチゴうどんこ病の防除薬剤

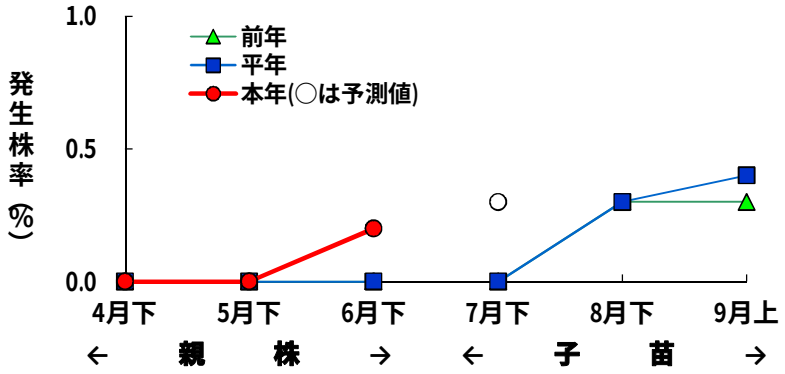
系統	薬　剤　名	希釈濃度（倍）	使用時期	使用回数	備　考	予防	治療
①	ベルクート水和剤	1,000	育苗期	5回以内	200～300L/10a	○	
①+⑩	ダイマジン	2,000	収穫前日まで	2回以内	150～300L/10a	○	
②	フルピカフロアブル	2,000～3,000	収穫前日まで	3回以内	100～300L/10a	○	
③	サンヨール	500～1,000	収穫前日まで	6回以内	100～300L/10a	○	
④	ボトキラー水和剤	1,000	発病初期	－	150～300L/10a	○	
	アグロケア水和剤	1,000～2,000	収穫前日まで	－	100～300L/10a	○	
	ボトピカ水和剤	2,000～4,000	発病初期	－	100～300L/10a	○	
④＋⑫	クリーンカップ	1,000～2,000	収穫前日まで	－	100～300L/10a	○	
⑤	モレスタン水和剤	3,000～4,000	収穫前日まで	2回以内	高温時の薬害に注意	○	○
⑥	ラリー水和剤	4,000～8,000	収穫前日まで	3回以内	150～300L/10a	○	○
	ルビゲン水和剤	4,000	収穫前日まで	3回以内		○	○
	サンリット水和剤	2,000～4,000	収穫前日まで	3回以内	100～300L/10a	○	○
	トリフミン水和剤	3,000～5,000	収穫前日まで	5回以内	100～300L/10a	○	○
⑥+⑪	パンチョTF顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内	100～300L/10a	○	○
⑦	アミスター20フロアブル	1,500～2,000	収穫前日まで	苗床4回以内	100～300L/10a	○	○
	ストロビーフロアブル	3,000～5,000	収穫前日まで	3回以内	100～300L/10a	○	○
①+⑦	ファンベル顆粒水和剤	1,000	収穫前日まで	2回以内	100～300L/10a	○	○
⑧	ポリオキシンAL乳剤	1,000	収穫開始14日前まで	3回以内		○	○
	ポリオキシンAL水和剤	1,000	収穫開始14日前まで	3回以内	100～300L/10a	○	○
⑨	カリグリーン	800～1,000	収穫前日まで	－	100～300L/10a		○
	ハーモメイト水溶剤	800～1,000	収穫前日まで	－	150～300L/10a		○
⑨+⑫	ジーファイン水和剤	750～1,000	収穫前日まで	－	150～500L/10a	○	○
⑬	オレート液剤	100	収穫前日まで	－	100～300L/10a		○
⑭	エコピタ液剤	100	収穫前日まで	－	100～300L/10a		○
⑮	アフェットフロアブル	2,000	収穫前日まで	3回以内	100～300L/10a	○	
⑯	ガッテン乳剤	5,000	収穫前日まで	2回以内	100～300L/10a		○
⑰	イオウフロアブル	1,000	親株床初期	－	薬害防止のため高温期の使用は控えるとともに、本剤の散布間隔は1ヶ月以上空ける。展着剤は加用しない。果実の汚れを防止するため、本圃での使用は開花前までとする。	○	○
		2,000	親株床中期～本圃初期	－			

系統番号①グアニジン系　②アニリノピリミジン系　③有機銅　④微生物　⑤キノキサリン系
⑥DMI（エルゴステロール生合成阻害剤）　⑦QoI剤　⑧抗生物質　⑨天然系　⑩ヒドロキシアニリド系
⑪その他1　⑫無機銅　⑬脂肪酸系　⑭その他2　⑮SDHI（コハク酸脱水素酵素阻害剤）　⑯チアゾリジン系
⑰無機硫黄系

2．苗立枯症（炭疽病、疫病、萎黄病）

1）発生状況

イチゴ育苗圃の巡回調査（6月下旬）の結果、親株における苗立枯症（炭疽病）の発病株率は0.2%（平年0.0%、前年0.0%）であり、平年および前年より早い発生となっている。



2）耕種的防除

(1)発病株や発病したランナー、枯れた下葉や葉柄等は早急に除去し、圃場外に持ち出す。

(2)発病が確認されてなくても発病が疑われる株は圃場外へ持ち出す。

(3)親株が発病した場合、それから発生しているランナー・子苗もすべて圃場外へ持ち出す。

(4)圃場外へ持ち出した株や植物体は、埋めるか肥料袋に入れて密閉する。圃場近くに放置しない。

(5)傷口からの感染を防ぐため、摘葉、採苗等の作業等は晴天時に行い、作業終了後は薬剤防除をう。

⑹ **ビニル雨よけを行う。**

⑺ 灌水の水滴が大きいと水はねによって菌が飛散するため、水滴が小さい灌水装置等を用いる。

⑻ 必要な苗数が確保できたら、親株はすみやかに除去する。

⑼ ポット内が過湿にならないように適切な灌水管理を行う。

⑽ 苗は十分な間隔を置いて並べ、過密条件としない。

3）薬剤防除

⑴ 育苗期間を通じて、下記の表2～表4を参考に別系統の薬剤でローテーション散布を行う。

⑵ 炭疽病の防除においては、ゲッター水和剤及びセイビアーフロアブル20に対する耐性菌による効果の低下を防ぐため、**育苗期間の両剤の使用回数は各3回以内にとどめる。**

⑶ 防除薬剤の詳細については、県病害虫防除のてびき187～193頁を参照する。

表2　主なイチゴ炭疽病の防除薬剤

系統	薬　剤　名	希釈濃度（倍）	使用時期	使用回数	備　考
①	アントラコール顆粒水和剤	500	仮植栽培期	6回以内	150～300L/10a
	ジマンダイセン水和剤	600	仮植栽培期（但し収穫76日前まで）	6回以内	
②	デランフロアブル	1,000	育苗期	2回以内	100～300L/10a
③	オキシンドー水和剤80	1,000	育苗期	3回以内	100～300L/10a
	キノンドーフロアブル	100	育苗期	3回以内	100倍はクラウン部散布
		500～800			
④	ベルクート水和剤	1,000	育苗期（定植前）	5回以内	200～300L/10a
⑤＋⑥	ゲッター水和剤	1,000	収穫開始21日前まで	3回以内	100～300L/10a
⑦	セイビアーフロアブル20	1,000	収穫前日まで	3回以内	100～300L/10a
⑧	オーソサイド水和剤80	800	収穫30日前まで	3回以内	100～300L/10a

系統番号　①ジチオカーバメート　②キノン系　③有機銅　④グアニジン系　⑤ベンズイミダゾール系
⑥N-フェニルカーバメート系　⑦フェニルピロール系　⑧フタルイミド系

表3　主なイチゴ疫病の育苗期の防除薬剤

系統	薬　剤　名	希釈濃度（倍）	使用時期	使用回数	備　考
①＋⑨	リドミルゴールドMZ	1,000	育苗期	3回以内	50ml/株 200～400L/10a
⑩	ランマンフロアブル	500～1,000	育苗期	2回以内	50ml/株 土壌潅注
	オラクル顆粒水和剤	2,000～3,000	育苗期	3回以内	50ml/株 土壌潅注

系統番号　①ジチオカーバメート　⑨フェニルアミド系　③Qil剤

表4　主なイチゴ萎黄病の育苗期の防除薬剤

系統	薬　剤　名	希釈濃度（倍）	使用時期	使用回数	備　考
⑤	ベンレート水和剤	500	ポット育苗期間	3回以内	100ml/株 潅注
			仮植前		1～3時間苗根部浸漬
			仮植時及び仮植栽培期間		1㎡当たり3L潅注
	トップジンM水和剤	300～500	仮植前	3回以内	1～3時間苗根部浸漬
			仮植時及び仮植栽培期間		1㎡当たり3L潅注

系統番号　⑤ベンズイミダゾール系